ニューファンドランド州

定置網でマダラをひきあげる漁夫。

めた結果であった。その後、社会保障政策など、連邦加盟のメリットを説いたスモールウッド自由党政権が二十年にわたって続いたのを見ると、加盟は州民から完全に受け入れられたのだろう。

州の経済は、地下資源が中心になっている。ニューファンドランド島は昔から銅、亜鉛、銀、金、カドミウム、鉄鉱石、ほたる石、葉ろう石、アスベスト、シリカ、石こう、石灰石などの産地として知られてきたが、いまではこれらの鉱物も、カナダ全体の生産量の半分以上を占めるラブラドル地溝の高品位の鉄鉱石のために影がうすれてしまった。

最近特に脚光を浴びているのは、ニューファンドランド島とラブラドルの南東近海で進んでいる海底油田の開発。九十三万二千平方キロに及ぶ大陸棚では、一九六〇年代から地層調査が始まり、アモコ、インペリアル、パナムなどの各社が競って探査に乗りだした。

しかし若干期待を抱かせる油徴は見せたものの、いずれも商業開発できるほどの規模ではなかった。

一九七九年、グランド・バンクス北方のアバロン海盆で何本かの油井を試掘したところ、日量一万一千四百バレルの上質な原油が噴出した。商業生産の可能性をもつことが分かった北米大西洋岸最初の油田である。同年、同じグランド・バンクスで発見されたハイパーニア鉱区では、開発可能な石油が十八億五千万バレル、天然ガスが二兆立方フィート埋蔵されていることが確認されている。世界でも最大規模で、北海でもそれより大きい油田は二つしかない。油田の開発は、一九九〇年代に本格化するものと思われる。

ニューファンドランド州は、水力資源にも恵まれている。そのため、エネルギ

鉱物資源と水力の宝庫

ケベック州の北東に三角形状に広がるラブラドル地方は、鉱物資源と水力資源の宝庫だ。

鉱物資源の筆頭は鉄鉱石。ニューファンドランド州はカナダ全体の鉄鉱石の半分を生産しているが、その大半はアイアン・オア・カンパニー・オブ・カナダが経営する二つの鉱山とラブラドル西部のワブッシュ鉱山で採掘されたものだ。日本にも五千万ドル相当（昨年）の鉄鉱石が輸出されている。

その他の鉱物資源には、アスベスト（石綿）、シリカ、葉ろう石、リン酸塩、重晶石、石こう、石灰石、セメントなどの建築資材、ほたる石、卑金属などがあり、そのうち、クリソタイル（温石綿）、アスベストやリン酸塩などは日本にも出荷されている。

その他、イットリウム、ジルコニウム、希土酸化物などの特殊鉱物やウラン、マグネシウムも発見されており、今後さらに多種多量の金属・非金属鉱物が発見される可能性をもっている。

こうした鉱物資源に加えて豊富なのが水力資源。特にチャーチル・フォールズの水力発電所で生産される電力はケベック電力公社がそのほとんどを買い取り、ケベック州内で消費するほか、米国に輸出している。